

# 「関西のインフラ強化を進める会」開催報告

(一社)近畿建設協会

近畿建設協会では、公益事業の一環として「関西のインフラ強化を進める会」を設置しました。今回は、JAPIC国土・未来プロジェクト研究会 委員長 藤本貴也氏、建設コンサルタンツ協会 近畿支部長 兼塚卓也氏による基調説明のほか、ゲートウェイ機能の強化、ネットワーク整備をテーマに意見交換を行いました。この度、第2回委員会を7月31日に開催しましたので、その報告をします。

## 委員名簿

(委員長)	小林潔司	京都大学経営管理大学院 教授
	池田豊人	近畿地方整備局長
	井戸智樹	歴史街道推進協議会 ネットワーク推進部長
	上村多恵子	京南倉庫(株)社長
	岡本博	阪神高速道路(株)常務執行役員
	小河保之	(株)URリンゲージ 参与
	長田信	近畿地方整備局 副局長
	神田彰	関西経済連合会 理事
	斎藤峻彦	近畿大学 名誉教授
	佐藤道彦	JR西日本 創造本部 アドバイザー
	鹿間孝一	産経新聞 論説委員
	清水喜代志	JR西日本 建設工事事務 技術顧問
	正司健一	神戸大学 教授
	竹内廣行	大阪府 副知事
	多田稔子	田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長
	中塚則男	関西広域連合 事務局長
	若林陽介	前近畿運輸局長
(事務局)	霜上民生	近畿建設協会 理事長
(事務局)	兼塚卓也	建設コンサルタント協会 近畿支部長



- (藤本氏) ● 人口減時代を迎え、その影響を大きく受ける地方部の活性化は当面の最重要課題である。大阪万博が開催されるならば、関西と西日本が浮揚するきっかけになる。関西だけでなく、九州や四国を巻き込んで西日本全体の活性化が必要。
- (兼塚氏) ● 建設コンサルタンツ協会近畿支部でまとめた提言「立ち上げ関西 新しい道路網2050」を説明し、南海経済軸などのイメージを示した。
- (小河氏) ● プロジェクトを具体化するには言い続けることが大切であるが、言い続けると何時まで言っているのか、ということになる。圏外に発信するもの、圏内に発信するものに整理するべきである。
- (若林氏) ● 大阪の話はもちろん、日本海側・四国をどうするのか。ハード・ソフト一体の整備が必要である。また、新大阪をどこまで再開発をするのか、拠点を何処にするのかも決めるべき。



第2回会合でネットワーク整備など議論  
関西インフラ強化の会  
国や自治体、経済界、学識者や関西の産官学が集まり、経済活動や防災・減災対策、観光振興に欠かさないインフラ整備について考える「関西のインフラ強化を進める会」(委員長・小林潔司、副委員長・井戸智樹)は7月31日、大阪市中区の大阪キヤッセルホテルで第2回会合を開いた。写真

路交通情報センター副理事長が日本創生プロジェクトを紹介。藤本氏は関西関連プロジェクトの具体事例などを挙げながら、「人口減少時代を迎え、その影響を大きく受ける地方部の活性化は当面の最重要課題だ。大阪万博が開催されるならば、関西と西日本が浮揚するきっかけになる。関西だけでなく、九州や四国を巻き込んで西日本全体の活性化が必要」と話した。

次に兼塚支部長が「建設コンサルタント協会近畿支部がまとめた提言「立ち上げ関西 新しい道路網2050」を説明。南海経済軸などのイメージを示した。

この二つの提言を基に委員が意見交換。小林委員長が「プロジェクトは、絵にならずとも現実に近い。将来の夢を図面に落とし込むことで共有することができると。首長は人口減少の影響が中心を支配しており、経済効果は二次になっている面がある。」

最後に小林委員長がこう話した。プロジェクトはサブライサイド(供給側)だけでなく、デマンドサイド(需要側)の話も議論する必要がある。これは大学側で進めなければならないと感じている。土木学会関西支部の中でデマンドサイドの議論をやる場を作りたいという提案し、認められた。

次回会合は12月12日に行う。また、第2回シンポジウムは10月26日に建設技術展2017近畿(マイドーム大阪)の多目的ホールで開催する。

第2回シンポジウム「関西のインフラ強化を進めるために」  
日時：平成29年10月26日(木) 建設技術展2017近畿  
場所：マイドーム大阪 多目的ホール (自由参加)

次回日程：12月12日(火) 第3回委員会